

喜多方市小学校農業科全体計画

平成 24 年 4 月
喜多方市教育委員会

1 喜多方市小学校農業科に対する基本的な考え方

(1) 地域の特色としての農業と児童・生徒との農業のかかわり

① 基幹産業としての農業

本市は近年、雄大な自然、蔵や文化財、ラーメンやソバなどを資源とした観光産業が伸展してきている。また、良質な水と米をもとにした酒造業、桐材加工や漆器などの伝統的な産業も見られる地域である。しかし、市の基幹産業は、稲作を基幹作物とする農業であり、近年グリーンアスパラ栽培など、園芸作物等の栽培にも力を注いでいる。

② 喜多方市の農業の現状と取り組み

全国的な傾向である農業従事者の高齢化や農家数の減少が本市でも進行しており、耕作放棄地が拡大し農地の荒廃が目立つようになってきている。

そこで、本市ではソバオーナー制度や修学旅行生を対象とした農業体験、農産物の直販などグリーンツーリズム事業による都市住民との交流、農業生産法人以外の法人の農業経営参入による遊休農地の活性化を図るアグリ特区の取り組みなど、農業振興ための施策を市の重点施策として展開している。

③ 市立小・中学校における農業体験学習等の現状

平成 15 年度より、喜多方地区の小・中学校 13 校では、食農教育を教育課程に位置づけ、各校の実態や特色を生かした教育活動を実施すると共に、市食農推進委員会を設置し小・中学校への支援と関係諸機関との連携強化を図ってきた。また、農作物の有機栽培や減農薬栽培が盛んな熱塩加納地区においては、地域住民や J A の支援を受けながら、小学校 2 校及び中学校で、有機農法による水稻栽培を教育活動として行ってきた。

このような実態を踏まえ、合併後の平成 18 年度においては、市内 22 校の小学校と 7 校の中学校において、食農教育の充実を図ると共に、食育教育や学校給食への地元農産物の導入推進など、学校教育と農業との融合を図る取組を進めてきた。

④ 児童・生徒の農業との関わり

(児童・生徒の農業に関するアンケート結果から：平成 18 年 8 月実施)

農業が主要産業の一つとなっている本市においては、市街地の小・中学校を除いて、児童・生徒の家庭の 90%以上が、全市的には 64%が家庭菜園も含め、何らかの形で農作物を栽培している。

農作物を栽培している家庭においては、児童・生徒の 65%が「よく手伝いをする」「ときどき手伝いをする」と答えており、特に小学校低学年においては 80%前後の児童が何らかの形で手伝いをしているという結果であった。

しかし、学年が進むにつれ、その割合が減少し、部活動や家庭学習等で時間の

取れない中学生においては、約 40%と小学校低学年と比較して半減してしまうという結果であった。

「作物を育てるのが好きか」という設問に対しては、小学校においては「好き」「どちらかというが好き」と答えた児童は 71%おり、「どちらかという嫌い」「嫌い」と答えた児童はわずか 7%であった。一方、中学校においては、「好き」「どちらかというが好き」と答えた生徒が 23%、「どちらかという嫌い」「嫌い」と答えた生徒が 18%であった。

小学校 6 年生と中学校 1 年生とを比較した場合、「好き」「どちらかというが好き」が 61%から 25%に激減していることや、「どちらかという嫌い」「嫌い」が 7%から 18%に倍増していることは、小・中学校における系統的・計画的な農業体験の実施の必要性を示唆する結果であると考えられる。

2 喜多方市小学校農業科実施の意義

(1) 学校教育の現状

現在、児童・生徒の規範意識や社会性の希薄化、不登校の増加、自律心や学ぶ意欲の低下、生活習慣の乱れなど、21 世紀を担う児童・生徒を取り巻く問題が深刻化し、社会全体に大きなかげを落としている。

そのため、学校現場においては「豊かな心の育成」「個に応じた教育」「授業の質的改善」等に取り組み、一定の成果は上げているものの、根本的な解決には至っていないのが現状である。

(2) 農業の教育的効果

農業は、「土を耕し、種をまき、いのちを育み、いのちをつなぐ」という人間にとって最も基本的な活動であり、半世紀前までは都市部を除き、全国各地で当然のこととして行われてきた営みであり、多くの子どもたちはその日常的な風景の中から様々なことを学んできた。

しかし、現在では農作物の生産現場を直接見たり係わったりする機会が少なくなつたため、児童・生徒は農業から多くのことを学ぶことができなくなつてしまった。

そこで、農業のもつ教育的効果をあらためて考えてみると以下のようなことがあげられる。

① いのちについて学ぶ

農業活動を通して、農作物が成長していくことを実感させ、農作物が単なる食べ物ではなく、「生きるもの」であることを理解させることができる。

さらに、人間は「生きるもの」であるところの食べ物により日々のいのちをつないでいることに気づかせ、「いのちといのちの関わり合い」や「いのちの大切さ」について理解を深めさせることができるものと考えられる。

② 共生や思いやり、環境について学ぶ

農業活動を通して、水田や畑は作物を育てる場であると同時に、多くの生き物が生まれ生活する場であることに気づかせ、人間が様々な生き物と共に生きることの大切さを理解させることができる。

また、自分以外の様々な生き物のことを考えたり思いやったりすることを通して、様々な生き物が共に生きることの大切さを学ぶことができるものと考えられる。

③ ゆとりや持続性・耐性を育む

農作物を育てることはすぐに結果の出ることではなく、数ヶ月にわたって世話を続け結果が出るものである。本来教育にとって重要なことである「ゆとり」を持った取組が農業活動の中では可能であると考えられ、その中で意欲を持続させたりつらい仕事に耐えたりすることなどを通して、持続性や耐性を育てることができるものと考えられる。

④ 想像力や判断力・実践力を育む

農業は自然が相手であり、一生懸命世話をしても天災によってその努力が踏みにじられたり、作物に良いことと考え水や肥料をやり過ぎれば場合によっては枯れてしまうこともある。常に、実がなる将来を予測し計画的に世話をしたり、不慮の自然現象を予測しその対策を考え実行したりすることを通して、農業に必要な知識を習得させ、想像力や判断力、実践力を育むことができるようになるものと考えられる。

(3) 喜多方市の地域の特色を生かした教育活動の展開

農業が主要産業の一つとなっている本市では、市街地の小・中学校を除いては保護者や地域住民の中に農業に携わる方が多く見られる。また、児童・生徒の中にも時間的な長さは異なるものの、家庭において農作業の手伝いをするなど農作物の栽培に関わっているものも少なくない。

このような環境のもと、保護者や地域住民の方々の支援を受けながら、本格的な農業活動に取り組むことは比較的容易なことであり、児童にとっても取り組みやすい活動であると考えられる。

また、開かれた学校や学校と地域との連携を具現化するためには、有効な活動であると考えられる。

以上のことから、小学校において本格的な農業活動に取り組むことにより、前述した教育課題の解決や本市の農業のよき理解者・支援者となり得る児童・生徒の育成が図られることを期待するものである。

3 喜多方市小学校農業科のねらい

小学校における「農業科」においては、「なすことによって学ぶ」精神に基づき、農作業の実体験活動を重視した教育を展開する。

(1) 豊かな心の育成

児童は、好き嫌いだけで食べ物を残したり無造作に捨てたりしがちである。農業においては、農作物は単なる食物ではなく、「いのちあるもの」であり「人のいのちをつなぐ大切なもの」であることを学習していく。その中で「いただきます」や「もったいない」など日常生活の中で使われている言葉の意味について考えさせ、人と

して必要な感謝の気持ちや慈しみの心を育てていく。

また、水田や畑に生きる様々な生物と関わり合うことにより、人間を含め多くの生き物が共に生きる環境とは何か、そのためにはどのようなことが必要かなど、自己中心的な考え方をしやすい児童に、様々な立場に立って考えて行動することの大切さに気づかせる契機を与えるようにする。

このように、農業活動という直接的な体験を契機に、様々な面から児童の暮らしぶりを見つめ直させ、豊かな心の育成を図っていく。

(2) 社会性の育成

農業科においては、種をまき、苗を育て、植え付けをし、水や肥料の管理、除草、収穫、調理・加工という一連の活動を通して学習を進めていく。徐々に成長していく作物は、児童にとってかけがえのないものであり、そのいのちは児童の手に委ねられている。

このような環境のもと、児童は自分の責任を自覚し、世話をして農作物を育てていくことになる。農作物の栽培は、すぐに結果の出ることではなく、数ヶ月にわたって世話を続けることにより良い結果が出るものであり、得られる結果は、児童一人ひとりの努力がそのまま形となって現れるものである。

このように、数ヶ月にわたる農作物栽培という具体的な体験を通し、児童に責任感を持つことや努力することの必要性を徐々に気づかせ、目標に向かって取り組むことの大切さ、嫌なことや辛いことでも続けることの意味を理解させ、現代の児童に欠如しがちな社会性の育成を図っていく。

(3) 主体性の育成

より良い作物を収穫するためには、事前に栽培する作物について調べ、その栽培方法や土壌・天候等の自然について学ぶことが必要であり、栽培過程においても、その時々々の作物の様子をよく観察し、疑問点を調べたり専門家の指導を受けたりすることが必要となる。

一定の目標を設定し計画を立てて取り組み、その時々々に必要な対応策を考える過程には、今求められている主体的な学習意欲や取り組む態度が必然的に育成されるものと考えられる。

4 喜多方市小学校農業科の目標

- (1) 農作業の実体験を通して、自然の係わり合いの複雑さについて理解し、他の生き物と共存することの大切さを理解することができるようにする。
- (2) 農作業の実体験を通して、食べることの意味を理解し、生命の大切さを理解できるようにする。
- (3) 農業に必要な気象、土壌、生物等の基本的な知識を習得すると共に、将来を予測し、計画的に農業に取り組むことができるようにする。

5 農業科の実施の方針

- (1) 体験的な学習を重視し、土に親しむということを中心に農業についての学習を進めるようにする。
- (2) 教科指導との関連を図りながら、気象、土壌、生物等についての基本的な知識を習得できるようにする。
- (3) 3・4年生では、主として農作業を中心に学習を進め、5・6年生において「健康」や「生命」いわゆる「食育」との関係について学習を進めるようにする。
- (4) 5・6年生では、記録をとりながら将来を予測し、計画的に農業に取り組む基礎的な力を養うことができるようにする。
- (5) 農業科の時間は、直接的な農作業体験の時間とし、「生命の尊重」「健康」「環境」「食物」などに関する事柄は、各教科や道徳、特別活動との関連の中で指導する。
- (6) 地域との連携を重視し、地域のボランティアの支援を受けながら活動に取り組む。

6 喜多方市小学校農業科の各学年の指導内容

自然の循環における農業の意味や工夫については小学校3年生から6年生まで小学校農業科の学習を通して学ぶようにする。また、作物には命があることや様々な生命のかかわりの中で農業が成り立っていることについても同様な取り組みをしていくようにする。

(1) 小学校3年生

1年間の農作業の体験を通して、継続して作物の世話をすることの大切さを学ぶことができるようにする。

- ① 農作業を通して土に親しむ。
- ② 季節に応じた農作業の内容について知る。
- ③ 農業に関心をもち、進んで作物の世話をする。
- ④ 1年間の農作業の体験を通して、継続して作物の世話をすることの大切さを学ぶことができるようにする。

(2) 小学校4年生

農作物を育てるためには、土作りや苗作り、除草等個々のきめ細かな作業が大切であることを理解できるようにする。

- ① 農作業を通して農業に親しむ。
- ② 丈夫な作物を育てるための農作業の工夫について知る。
- ③ 農業について関心をもち、作物を育てるための作業をていねいに行なう。
- ④ 農作物を育てるためには、土作りや苗作り、除草等個々のきめ細かな作業が大切であることを理解できるようにする。

(3) 小学校5年生

1年間の農作業を通して、食と健康との係わりについて学習し、食を守るための農

業の大切さについて理解することができるようにする。

- ① 気温等自然条件に応じた農作業の工夫について知る。
- ② 作物の成長の記録をとりながら作物の世話をする。
- ③ 作物の成長に関心をもち、工夫しながら作物を育てる。
- ④ 安全な作物をそだてるための土作りなどの工夫について知る。

(4) 小学校6年生

1年間の農作業を通して、自然界には様々な生命が息づいていることや環境を守りながら自然と人間が共生することの大切さを理解することができるようにする。

- ① 気温等自然条件に応じた農作業の工夫について知る。
- ② 作物の成長の記録をとりながら作物の世話をする。
- ③ 作物の成長に関心をもち、工夫しながら作物を育てる。
- ④ 安全な作物をそだてるための工夫について知るとともに、田や畑とに棲息する小動物と作物の成長との関係について知る。

7 平成24年度喜多方市小学校農業科(総合的な学習の時間)年間授業時数

区 分	各教科の授業時数									道 徳	外国語活動	総合的な学習の時間		総授業時数
	国 語	社 会	算 数	理 科	生 活	音 楽	図画工作	家 庭	体 育			農 業 科	そ の 他	
第1学年	306		136		102	68	68		102	34				816
第2学年	315		175		105	70	70		105	35				875
第3学年	245	70	175	90		60	60		105	35		35	35	910
第4学年	245	90	175	105		60	60		105	35		35	35	945
第5学年	175	100	175	105		50	50	60	90	35	35	35	35	945
第6学年	175	105	175	105		50	50	55	90	35	35	35	35	945